

令和7年度 学校評価報告書

学校名	三田市立つつじが丘小学校
-----	--------------

1 学校教育目標

学ぶことを楽しみ、人とつながって心豊かに生きるつつじっ子の育成
(つよい心の子・つよい体の子・じぶんで考える子)

2 今年度の学校重点目標

- ① 学校運営協議会との連携・協働による社会に開かれた教育課程の充実
- ② 特別の教科道徳・人権教育の推進による豊かな心の育成
- ③ 健康な体作りを目指すための体幹の育成と基礎的な体力の向上
- ④ 校内研究の推進による「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善
- ⑤ 学力向上に向けた取り組みの充実と家庭・地域と連携した教育活動の推進
- ⑥ 児童の「内面理解」に基づく組織力を活かした生徒指導の充実
- ⑦ 実効性のある小中一貫教育の推進と保・幼・小・中連携の充実
- ⑧ 誰もが安心して働ける職場環境づくりの推進

3 総合的な自己評価

- ・子どもたちが主体的に学び自らの課題意識を持つため研修を重ね授業改善に取り組んだ。
- ・「縄跳び検定」や「防災検定」など、つつじが丘小学校独自の取り組みが定着している。
- ・週1回の児童打合せで迅速に共通理解を図り、問題行動等の未然防止、早期発見、早期解決に努めるとともに家庭と連携しながら学習・生活指導を進められた。
- ・ICT機器を活用した校務DX化を推進し、さらなる業務改善を図る必要がある。

4 総合的な学校関係者評価

- ・多数の学校支援ボランティアや地域ぐるみで温かく子どもを育てる環境づくりができた。今後は活動の継承や充実のために積極的な発信や啓発が必要。
- ・課題解決に向け多角的な視点で地域と意見交流しながら教育活動に活かすことができた。
- ・挨拶が良くなっていると地域の声があった。悩みを相談できたり、分かりやすく教えていたり、教職員と児童の関係が良好であることが学校評価から伺えた。

5 評価結果

自己評価			学校関係者評価	
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
教育目標	教育目標達成に向けた具体的な指導計画や内容を作成し、取り組むことが出来たか	指導計画に基づき、取り組みを進めることができた。	教育活動において主体的で協働性をより高める教育活動を具体的に進める。	学校と地域が連携を図りながら啓発運動を進め各家庭への具体的な教育支援を推進したい。
教育課程	計画的な行事計画や学習カリキュラム(地域教材)が立てられたか	授業時数を確保し、地域学習の機会を全学年とも増やすことができた。	次年度も実施時期、内容等の見直しを図りつつ適切に実施していく。	行事の精選だけでなく、子どもたちの成長を見据えた効果的な内容となるよう設定願う。
	体験活動で興味、関心を十分に引き出し、主体的・意欲的な学習につなぐことができたか	計画的に自然学校、環境体験事業、校外学習等実施することができた。	活動がより充実した内容になるように計画をしっかりと立て、次年度以降も児童の主体的で協働的な活動を進めていく。	自然学校、環境体験事業、校外学習等が計画通りに実施でき子どもたちの成長に繋がったことは評価できる。より主体的な活動となるよう願う。
学習指導	基礎学力と基本的な学習規律や習慣の定着を図れたか	がんばりタイム指導員を学習支援に充て支援した。学習習慣の定着には課題が残る。	がんばりタイム指導員の継続活用を図る。継続して朝学習の定着を進め、学習習慣作りを家庭と連携して進める。	基礎基本の定着には家庭の教育力向上も必要である。学校と保護者との連携に加えて地域も協力して子どもたちを支えていきたいと考える。
	なわとびなど体力づくりの継続的な取り組みができたか	体育や休み時間も利用し、「縄跳び検定」も開催した。	今後も児童の体力向上に向け、時期や内容、方法を改善しながら取り組む。	全児童が頑張れる環境づくりとして縄跳び検定なども今後参観の機会を確保してほしい。
生活指導	メディア視聴時間の改善は図れたか	情報モラル教室を全学年で実施。今後も情報モラルに係る学習の充実を図っていく必要がある。	継続的に情報モラル教室を開催し「情報教育(正しいメディアと情報の向き合い方)」の推進を図る。オープンスクールで保護者と児童とともに情報モラルを学ぶ機会をつくる。	低学年から継続した情報モラルの育成、保護者の見守り方について積極的に啓発していくことが必要である。そのためには保護者への啓発が必要である。
	全校で「トトロとジジ(生活)の約束」の徹底が図れたか	月目標を各学年で発表し「生活の約束」を子どもたちからの発信で生活作りを進めた。挨拶や時間意識、友達を大切にするなど、約束を意識させることができた。	生活の目標を児童から発信することを継続して取り組んでいく。また、計画委員会が中心になって、学校全体を巻き込んで取り組める活動へとつなげていくよう、児童朝会を設定し取り組んでいく。	計画委員会の活動や、各学年からの発信等、さらに活動が増えている。児童の朝のあいさつ運動を含め、日々の生活の約束が児童会の主体的な取り組みによって成果となってきている。
	「学校いじめ防止基本方針」に基づき、組織的に対応できたか	いじめ対応チームを中心に計画的なケース会議開催等組織的な取り組みを進めた。	報告・連絡・相談体制の徹底で未然防止、早期発見、早期対応の充実が図れる組織体制を今後も強化していく。	今後も学校全体で、子どもたちの小さな変化を見逃さず、組織的な取り組みを継続していただきたい。
	誰もが安心できる学校づくりを進めることができたか	SC、SSWをはじめ関係機関との連携により、子どもや家庭との信頼関係につなぎ、登校日数の増加につなげることができた。	サポートルームの環境整備を進め効果的な活用を目指す。また、児童相互のコミュニケーション力を伸ばし、問題解決能力の育成を目指す。	多様な家庭環境等、柔軟に対応できる体制づくりをし、子どもたちの心の安定を一番に考え、取り組みを継続してほしい。
保護者・地域住民等との連携	授業参観、オープンスクール、学校行事などの教育活動が保護者や地域住民に開かれたものになっていたか	保護者、地域に教育活動を公開する機会を計画的に確保することができた。	今後も子どもたちの学校での様子を保護者や地域等へ見て頂く機会を充実させるとともに、通信、HPなどでの発信も計画的に行う。	地域防災の観点も取り入れて、保護者、地域が連携できる会の内容を検討し、より地域に開かれた開催となるよう願う。
	地域のボランティアや、公共機関、老人クラブなどの外部組織との連携は計画的に行えたか	学習支援(家庭科等)、地域探検など多くの支援ボランティアとの連携が図れた。また、ボランティア通信の発行により、地域との連携を発信できた。	組織的な取り組みが出来ているので、今後は活動の継承と充実に向けて地域やPTAとも連携を強化していく。また、学校支援ボランティアの周知ができていないため、積極的な発信を行う。	これまで同様に、地域ボランティアを積極的に活用できたことは評価できる。もっと活用できる場面を広げて、今後も地域とのつながりを大切にしていきたい。
学力向上指導改善プラン	理科専科と英語専科の配置により、指導体制を工夫し、個に応じた支援ができたか	指導補助員、兵庫型学習システム等の活用で個に応じた学習支援をより一層充実したい	個別の指導計画等を活用し、授業中の細やかな見取りと支援、放課後学習や朝学習で復習を中心に取り組んでいく。	専科や同室複数の指導で、きめ細かな支援及び基礎基本、学習習慣の定着も合わせて推進し、個別最適な学びの実現を願う。
	効果的な数学的活動を目指し、問題解決を図る授業に取り組めたか	外部講師の指導も受けながら、一人一授業を進め、計画的な取り組みができた。全体研修や授業公開等で研究に努めることができた。	子どもの意欲を引き出し、主体的に問題解決を図り、達成感を味わえる授業となるよう今後も継続し研究を進める。来年度研究会を行い、さらに学びを深める	算数科においても継続した研究を進める中で、授業に主体的に取り組む姿勢の育成が図られていることは評価できる。より発展的な取り組みを期待する。
	各教科・領域で、説明や発表、書いてまとめるなどの表現活動を授業で取り入れることができたか	一人一台のタブレットを教科学習の中で調べ学習、表現活動など効果的に活用することができた。	ICT機器活用能力の育成を図り、工夫した取り組みが行えるよう研修の充実を図る。また積極的な利活用を進め、その効果等について今後も検証を進める。	児童が本来持ち合わせている豊かな表現力が効果的に発揮されることを今後も願う。ICT機器と紙媒体を併用し効果的に活用する中で、より豊かな表現力向上に努めてもらいたい。

6 学校自己評価の実施状況について

時 期	内 容
1学期	評価項目の周知
2学期	学校評価アンケート項目についての検討 学力学習状況調査の分析について 次年度教育課程変更に向けて、学校教育改革推進委員会でのまとめ
3学期	三者の学校評価(保護者・児童・教員)実施と集計、学校評価(職員)と自己評価結果をもとに、改善策について審議し来年度の方針をたてる

※学校自己評価…外部(児童生徒・保護者・地域等)アンケートの実施を含む

7 学校関係者評価委員会の活動について

時 期	内 容
1学期	5月 今年度の重点教育目標、評価の視点について説明と手順等の確認
2学期	12月 これまでの学校運営の様子について意見交流し、課題解決に向けた方向性を確認する。学校評価項目や評価の方法等について共通理解を図る
3学期	3月 学校評価、アンケート結果をもとにした評価委員会を開催、まとめを行う

8 学校評価の公表について

時 期	手 段	内 容	添付
2月 27日	学校運営協議会	教職員、児童、保護者の三者評価(学校だより)を報告。各委員からの意見を集約、まとめを行う。	
3月 1日	学校だより 3月号・ホームページ	学校評価(児童・保護者アンケート)結果及び考察について報告・学校評価の結果及び今後の改善策を記載	○

※ 公表の具体がわかる印刷物等がある場合には添付願います